

ねいの里 ホオホオニュース



自然豊かな「ねいの里」(ねいの里で確認されたレッドデータブック掲載野生生物)

ねいの里ではビオトープ事業を進め「自然と人との共生」を目指した取り組みを行っています。その成果として県内では貴重となった生物を多く見ることが出来ます。「レッドデータブックとやま」に掲載されている野生生物で、平成20年現在「ねいの里」で確認されている野生生物は67種にのぼります。県内全体で指定されているリストは515種ですが、ねいの里の狭いエリアに、指定リストの13%が確認できる自然豊かな場所の証明ではないでしょうか。

カテゴリーの定義

- 絶滅種 (環境庁改訂版カテゴリー相当 → 絶滅+野生絶滅)
県内ではすでに絶滅したと考えられる種または飼育・栽培下でのみ存続している種
- 絶滅危惧種 (環境庁改訂版カテゴリー相当 → 絶滅危惧Ⅰ類)
絶滅の危機に瀕している種
- 危急種 (環境庁改訂版カテゴリー相当 → 絶滅危惧Ⅱ類)
絶滅の危険が増大している種
- 希少種 (環境庁改訂版カテゴリー相当 → 準絶滅危惧)
存続基盤が脆弱な種

	絶滅危惧種	危急種	希少種	合計	県内合計
植物	9 (アサザなど)	17	6	32	299
鳥	0	3 (オオタカなど)	6	9	54
両生類	1 (ホクリクサンショウウオ)	0	2	3	6
淡水魚	0	3 (ササガなど)	1	4	18
昆虫類	1 (コオイムシ)	4	8	13	122
軟体動物	1 (マルタニシ)	4	1	6	16
合計	12	31	24	67	515
県内合計	125	144	246	515	

注-1 今回「情報不足」「絶滅の恐れのある地域個体群」は除いています。
注-2 鳥類については、ねいの里で過去に観察できた物を記載しています。



植物絶滅危惧種 ガガブタ



昆虫絶滅危惧種 コオイムシ



両生類絶滅危惧種
ホクリクサンショウウオ

里の山にのびに

私のジュニアナチュラリスト活動

荒井 駿

僕はジュニアナチュラリストになる以前から、ねいの里の自然観察会によく参加していました。幼い頃から、昆虫や魚などの生き物が大好きだったので、よく捕えて家に持ち帰り観察していました。小学生の頃ナマズを捕まえて家でしばらく飼った後、「ねいの里」にもらって頂きました。自然をもっと知りたい、自然に触れたいという気持ちが常にあり、小学校5年の時ジュニアナチュラリストを受講しました。

その後、更に自然に対する興味が増したように思います。現在は釣りに夢中です。小学生の頃から川釣りや海釣りなどいろいろ体験しましたが、今は主に池沼でブラックバス釣りを楽しんでます。

幸い私が住んでいる小矢部市は自然が豊かな所で、近くにバス釣りを楽しめる池が数ヶ所あるので、友人とよく出かけています。水温、気温、風向きなど自然の変化を感じ、考えながら魚が今どこに潜んでいるかを予測します。ピタリとあたって釣れた時の喜びは格別なものがあります。

自分にとって自然を肌で感じながら行う釣りの時間は、なくてはならない大切なものです。



◆ ギフチョウと春の自然観察 (4月4日)

春の女神の代名詞で知られるギフチョウの観察会が4月4日30名の参加者で行われました。担当のナチュラリストより説明を受け観察に出発しました。当日は気温も上がり、ギフチョウの出現を期待しましたが、残念ながら姿を見ることが出来ませんでした。

今年はギフチョウの数は少なめの様です。自然観察は咲き始めたカタクリ、ダンコウバイ、ミズバショウの花など早春のフィールド観察を行いました。

記：長谷川 寛



◆ バードウォッチング (5月10日 野鳥の園・古洞の池)

5月10日、古洞池での野鳥観察に、仲良しのAさんから誘われ子供の遠足のようにワクワクして少々寝不足。当日お茶とお菓子だけをリュックに詰め双眼鏡も図鑑も忘れたうっかり者の私、皆さんの双眼鏡で時々見せてもらいました。池に以前冬鳥と教わったキンクロハジロ、鳥にもうっかり者がいるんだと妙な親近感。そのキンクロが水に潜り餌をとる間自分も息を止めていたら結構長かったという方や、キンクロの頭は寝癖がついているみたい、その寝癖は濡れても直らないとか、皆さんの観察眼や感想が楽しい。カワウの親子をみてほのぼのしたり、木漏れ日の中、いろんな緑を見て、風を感じ、葉っぱを触り、美しい鳥の声を聞きながら歩く。途中「札幌ラーメン・塩ラーメン」の聞きなしに、私のお腹の鳥も鳴いていた。半日皆さんの笑顔と自然にとっても癒されました。一緒に歩いてくれる人がいるということは喜びでもあり、慰めでもあります。Aさんありがとう、また誘ってね♡

記：中村 規子



毎月第1土曜日が活動日です。

塾の会活動日のうち、ねいの里との共催行事には参加予約が必要です。
 お気軽にねいの里へお越しください! (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)
 昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏を囲んでわいわい楽しく食べましょう。

6月6日(土)	7月5日(日)
○ 午前9:30時 ~ 12時 ・竹あんどん作りと囲炉裏で豚汁を楽しもう 13日のホテル鑑賞会用の竹あんどん作りとお昼は囲炉裏で豚汁を楽しみます。	○ 午前9:30時 ~ 12時 ・生き物との共生セミナー ジュニアナチュラリスト養成研修と合せてセミナーに参加します。
参加者/定員なし	参加者/定員なし

~ねいの里行事予定 案内~

- 6月13日(土) 18:30 ~ 20:30
囲炉裏とヘイケボタル鑑賞 (自然塾の会 共催)
- 6月27日(土) 8:00 ~ 12:00
オオムラサキの観察
現在(5/25)4匹の幼虫が飼育されています。
- 7月5日(日)
生き物との共生セミナー (自然塾の会 共催)

■ 特別展示

5月23日 ~ 6月22日 愛鳥ポスター展
 6月29日 ~ 7月27日 環境月間ポスター展

■ お願い ■

- 会員の駐車場利用について
 会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、休祭日の「いこいの村」駐車場利用料金が無料となっています。会員の方が駐車される場合は、ナチュラリスト駐車場の利用をお願いします。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第14号
 2009年 5月 日
 生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生は

丸山 功 さん(自然塾の会運営委員)
 「大好きねいの里探検」



展示館玄関先で到着を待つ私の姿を見つけ、はるか遠くから「マルヤマセンセー」と大きな声で呼びかけ、手を振り駆け足で近寄ってくる子供たち。

“ねいの里探検”と称して毎月の行事としてやって来る地元の音川保育所の児童たちで、一年を通してほぼ毎月行われる定例観察会が繰り返される。

カンアオイの葉を一枚一枚ひっくり返し、産み付けられた真珠のようなギフチョウの卵にクギ付けた。また、「一本だけもらおう」と言って取ったクロモジの枝先を鼻に擦り付けるようにして匂いを嗅ぐ姿は子供たちのみならず引率の先生も初めての体験であり大好評のひとつ。

年長組に進級して最初の探検であり、一つ一つが印象に残るねいの里の体験です。月を追う毎に探検コースに精通し、大人の目線では見えなかった低い位置にある虫の卵や小さな花の発見はさすが探究心の成長が見られる。中には好奇心旺盛な子供がいて、カナヘビを捕え得意顔を見せ、それを持たせてくれと横から手を伸ばす子供、皆の最後尾で恐る恐る覗くように見ている子供など様々な光景に出会う。

カナヘビには弱いがカマキリは大の友達であるかのように無造作につかみ取り、引率の先生にデジカメ撮影を要求する場面もある。

トンボに目が無い子供たちは保育所から持って来た捕虫網を振りまわし、捕らえたモノサシトンボやキイトンボを大事そうに虫かごに入れている。帰りに私は一言「虫かごのトンボたちもそろそろお母さんの所へ帰ったそうだね、バイバイしよう」。捕らえた虫やカエルは一人として持ち帰ることはない。現地ならではの教育の一つと考えている。

ねいの里探検のもう一つの楽しみは秋のキノコ汁作りだそうで、前日に先生がスーパーで買ってきたシメジやシイタケ、エノキタケ、マイタケなどを子供たちの手で細かく切り、それぞれポリ袋に入れて持って来る。炭焼き小屋の囲炉裏を囲み、煮上がったキノコ汁に競ってお代わりを重ねる食事風景が繰り返される。来年度に年長組を控える年中組の児童にとっては羨ましい行事であり、年長組への励みにするそうだ。

モミジの葉っぱの様な手で私の手にカー一杯にタッチ。 バイバイ!

虫取り大好き探検隊



初めてのカンジキ遊び楽しいな

